

課題名	42 安定高品質をめざす栽培技術の確立		分類	①
	バスタ液剤の茶園雑草への効果と使用法			
試験研究年次	55～1年(完了)			
I 目的: バスタ液剤の茶園雑草に対する効果と使用法を明らかにする。				
II 試験方法				
1 供試除草剤	バスタ液剤(グルホシネート18.5%)			
2 実施場所	所内圃場	7 試験区の構成:		
3 土壌条件	洪積世堆積赤黄色土 LiC/HC			
4 供試品種	おくみどり, 成木園	薬剤名	使用量	散布水量
5 栽植株式	うね幅180cm, うね間40cm	無処理	200ml/10a	100g/10a
6 試験規模	1区1㎡ 2反復	バスタ液剤	300 "	"
8 処理日	春季 5月21日, 夏季 9月6日	"	500 "	"
9 処理方法	茎葉処理 ハンドスプレー使用	"	800 "	"
10 処理時の雑草の生育		フリグロックス(比)		
	春季 メヒシバ1cm イヌタデ15cm			
	夏季 メヒシバ17cm スベリヒユ15cm			
III 主要成果の概要				
1 バスタ液剤はこれまで茶園雑草の茎葉処理剤として使用されているフリグロックスLと同等の効果が認められた。昭和62年10月に農薬登録が完了しており, 次の使用法により普及可能である。				
バスタ液剤 使用基準				
使用時期	作用特性	雑草の草丈	使用量 薬量/水量(10a)	安全使用基準
4月中・下旬 6月上・中旬 9月上・中旬	非ホルモン系 吸収移行型 (遅効性)	15cm以下	300～500ml/100～150ℓ	7日前まで2回以内
2 バスタ液剤の薬量は300～500ml/10aではフリグロックスL800ml/10aとほぼ同等の効果が認められ効果発現まで4～5日かかりフリグロックスLより遅効的である。				
3 うね間処理で薬剤が茶樹・茶葉へ飛散しないような散布では薬害、薬臭は発生しない。				

IV 主要成果の具体的データ

第1表 春季処理除草効果〔雑草風乾重対無処理比率〕

(62年)

項目 薬剤名	処理 15 日後				処理 30 日後			
	イヌタデ	メヒシバ	その他	合計	イヌタデ	メヒシバ	その他	合計
	%	%	%	%	%	%	%	%
pasta20mℓ	47.8	53.7	6.1	45.2	48.6	12.0	0	28.8
" 30mℓ	39.5	25.2	0	37.6	0	3.1	0	1.7
" 50mℓ	0	12.4	50.6	1.9	0	2.8	0	1.7
フリグロックスL 80mℓ/a	2.6	9.0	5.9	3.3	9.0	16.2	0	13.1

第2表 夏季処理除草効果〔雑草風乾重対無処理比率〕

(62年)

項目 薬剤名	処理 15 日後				処理 30 日後			
	メヒシバ	スベリヒユ	その他	合計	メヒシバ	スベリヒユ	その他	合計
	%	%	%	%	%	%	%	%
pasta20mℓ/a	70.0	50.0	0	52.2	72.0	0	0	72.6
" 30mℓ/a	21.4	38.2	0	22.1	20.4	0	144.4	15.1
" 50mℓ/a	10.7	17.8	0	10.7	0	27.2	0	3.4
フリグロックスL 80mℓ/a	17.1	22.2	0	15.4	4.8	46.9	0	9.5

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 本県の1990年度果樹・茶除草剤使用基準に採用した。
- 2 薬液が茎葉にかかると薬害が発生するので噴霧機の圧力を下げる、カバーを使用するなど飛散しないようにする。
- 3 散布後6時間以内に降雨があると効果が劣る。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

昭和62年度 福岡県農業総合試験場茶業指導所 試験成績書